

ウミガメに関する活動の記録

*北水 慶一

I. ウミガメ漂着の記録 (1994 年～2001 年)

1. はじめに

かつて相模湾沿岸は、アカウミガメの産卵が比較的よく確認される場所であったと聞く。大磯町においても 1960 年代から 1980 年代において確認したという事例が聞かれる。町内における産卵の記録は 1990 年 6 月 13 日 (当館記録) が最後であり、以降、話しとしてウミガメが上陸していた等の情報はあるものの卵を確認したケースは無い。しかしながら、当館においてもここ数年の間に 5 度、死体漂着を確認していることからアカウミガメは大磯町近海を回遊しているものと思われる。本報告では、1994 年から 2001 年までの当館でのウミガメの漂着記録を紹介する。

2. 記録

本記録は、町民の方から大磯町生活環境課 (現環境防災課) に通報があり、当館で記録、撮影をおこなったものである。ウミガメの同定は背甲の形状及び背甲鱗板の配列状態で確認した。1994 年から 2001 年の確認漂着したウミガメはすべてアカウミガメであった。

(1) 1994 年 6 月 21 日確認

大磯町西小磯海岸小磯幼稚園付近に漂着。腹部が上部となっており、直甲長、直甲幅は未計測。同日及び翌 22 日に記録撮影をおこない、郷土資料館職員が埋蔵した。



図 1. 1994 年 6 月 21 日に確認した個体

(*当館学芸員)

(2) 1994 年 8 月 26 日確認

大磯町東町海岸に漂着。同日、直甲長及び直甲幅を計測し、記録撮影をおこなった。直甲長は 87cm で直甲幅は 56cm であった。

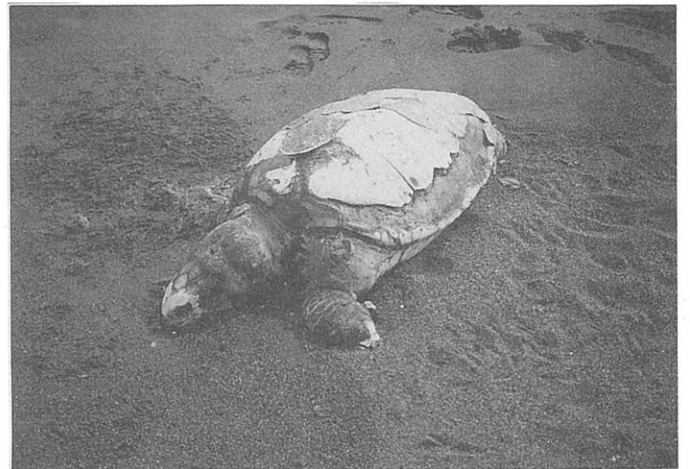


図 2. 1994 年 8 月 26 日に確認した個体

(3) 2001 年 5 月 22 日確認

大磯町国府本郷海岸に漂着。同日、直甲長及び直甲幅を計測し、記録撮影をおこなった。直甲長は 74cm で直甲幅は 60cm であった。



図 3. 2001 年 5 月 22 日に確認した個体

(4) 2001 年 7 月 18 日確認

大磯町西小磯海岸に漂着。同日、直甲長及び直甲幅を計測し、記録撮影をおこなった。直甲長は 71cm で直甲幅は 62cm であった。



図4. 2001年7月18日に確認した個体

(5) 2001年7月18日確認

大磯町西小磯海岸に漂着。同日、直甲長及び直甲幅を計測し、記録撮影をおこなった。直甲長は74cmで直甲幅は59cmであった。



図5. 2001年7月18日に確認した個体

まとめにかえて

当館で確認した5件の漂着記録を紹介したが、1994年から2001年の間では、他に1996年8月20日、大磯町国府本郷不動川河口漂着の記録（かながわ海岸美化財団記録；丸山ほか，1999）がある。ここ8年の間には合計6件の事例があり、多くは西小磯から国府本郷の海岸で確認されている（図6参照）。確認した個体は直甲長が71cmから87cmであり、成長段階としては産卵可能な成体で比較的若い個体が多い。

1994年には2体確認できたが、1995年から2000年の間では、1体しか確認されておらず、町内においてアカウミガメの漂着は近年、極めて稀なことであると思われた。しかしながら、2001年には3体の漂着を確認することができた。一時的なものであるのか、今後もその状況が継続するものであるかは、継続的に観察していくことが必要であると思われる。今後の状況については、追って報告をおこなう。

引用・参考文献

丸山一子・中村一恵（1999）：神奈川県におけるアカウミガメの記録，神奈川県自然誌資料，（20），33-38. 神奈川県立生命の星・地球博物館。
内田至（1982）：海ガメ学入門（Ⅰ），現生海ガメ類の形態と分類．海洋と生物，4（5）：1-7.

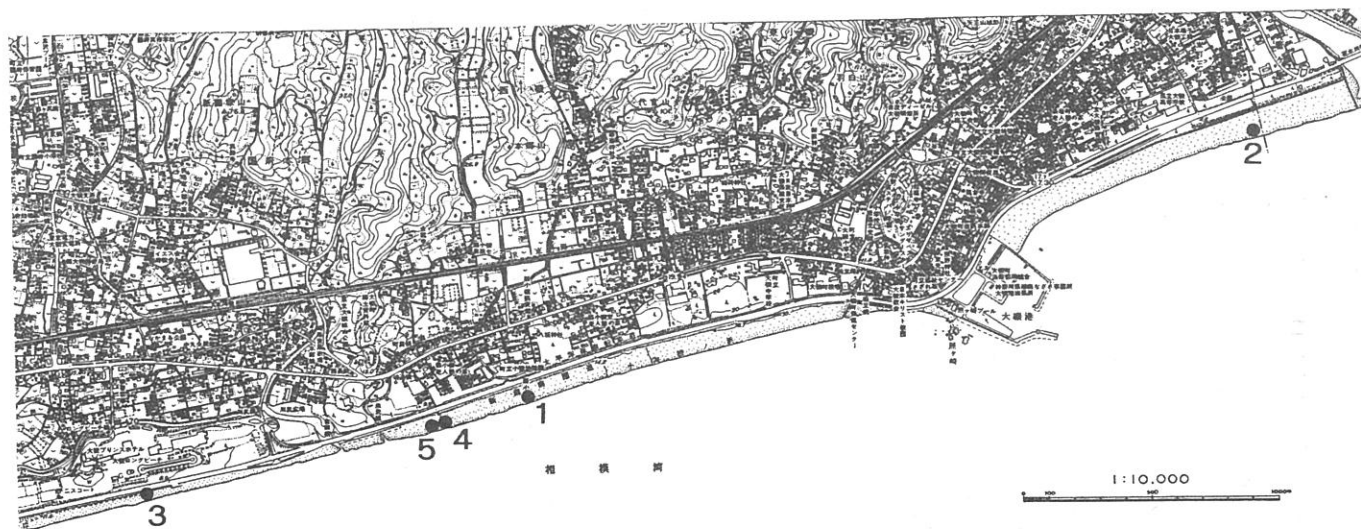


図6. 大磯町におけるウミガメの漂着の確認地点（大磯町発行10,000分の1地形図「大磯全図」を使用）

1. 1994年6月21日漂着 2. 1994年8月26日漂着 3. 2001年5月22日漂着
4. 2001年7月18日漂着（直甲長71cmの個体） 5. 2001年7月18日漂着（直甲長74cmの個体）